**自主学習のすすめ＜中学校　国語科（例）＞**

１　第２学年　文章の魅力を効果的に伝えよう　「鑑賞文を書く」（※どの学年でも活動可）

２　ねらい　【思考力、判断力、表現力等】

　・目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味等について考えたりして、文章の内容を解釈する力を付ける。（Ｃ読むこと）

　・文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（Ｃ読むこと）

　・根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する。（Ｂ書くこと）

誰に伝えたいか、相手（家族・友達・将来の自分等）を決めると、選ぶ言葉や表現も変わってきます。



３　準備物

　・教科書あるいは好きな本（小説、解説文等）、ノート（原稿用紙）

４　活動の流れ

読む楽しみがなくなるので、全てを説明する必要はありません。

　**①好きな文章のあらすじを一文でまとめる。**

**（例：現在使っている教科書、小学校のときの教科書、好きな本や話等）**



◇物語なら…

いつ(時間・季節)　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ある秋に

どこで（舞台）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 中山のお城近くの村で

誰が（主人公）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ごんぎつねが

誰と（主人公に影響を与える人物等）　　　　　　　　　 村人の兵十に

どのように、なぜ、どうした（主な出来事）　　　　　　 いたずらをしたつぐないをする話です。



◇解説文なら…

　　何をしている（著者の職業）　　　　　　 　　　　　　 芸術学者である

誰が（著者）　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　布施英利さんが

　 何について（研究、観察、調査の対象となっているもの） 絵画「最後の晩餐」について

 どのように（期間、方法等）　　　　　　　　　　　　　 作者レオナルド・ダ・ヴィンチの技法を分析し

　 どうした（研究、観察、調査） 絵の魅力を紹介している文章です。

**※すぐに手に入る本や読んだことのある話を改めて読み深める方が、取りかかりのハードルが低く気軽にやってみようと思えます。**

**また、教科書の教材文くらい長さの方が、読むことの苦手な生徒にとって取り組みやすくなります。**

**②選んだ文章の魅力を一文でまとめ、その根拠となる具体的な叙述や、論の進め方、言葉の使い方、表現の効果などを書き出す。**

付箋に書いていく方法もあります。

【魅力】　登場人物の心情を細やかに映し出す言葉の使い方が魅力だ。

【根拠】　「取り落としました」「青いけむり」「つつ先から細く出ていました」

**③②を読み手に分かりやすく伝えるには、どのような言葉を使い、どのような順序で説明すればよいかなど、**

**書くときの表現の効果を考える。**

抽象的な概念や、見方や考え方を表す言葉を1つは使うよう助言しましょう。

　　　「落としました」と「取り落としました」を比較して説明しよう。

**※単元における〔知識及び技能〕の指導事項との**

**関連を図ります。**

　　　「○○に注目すると」という語を使ってみよう。

　→　言葉に注目すると、「落としました」と書いてあるよりも、「取り落としました」と「取り」がつくことで、つかんでいた力が抜けて、思わず落としてしまったという意味合いが強調される。これが、兵十の驚きととまどいの混ざった心情をよく表している。

生徒が、これまで学んだことや自分の経験と重ねながら考えることができたら素晴らしいですね！最後に読み直して、誤字・脱字等を確認するよう伝えましょう。

　**④選んだ文章を読んで自分が感じたことや考えたことを加え、鑑賞文**

　　**を２００～３００字程度で書く。**

５　鑑賞文例

あらすじ

魅力の説明

感想・考え

　この物語は、ある秋、中山のお城近くの村で、ごんぎつねが村人の兵十にいたずらをしたつぐないをする話だ。

　この作品、人物の心の揺れや動きを表す言葉に注目すると、味わいが一段と深くなる。

例えば、兵十が銃を「取り落としました」とある。「落としました」ではなく、「取り落としました」とされていることで、兵十の力が抜けて思わず銃を落としてしまった印象が強まり、彼の動揺が臨場感をもって迫ってくるのだ。

　たった数文字の修飾語にも、作者の意図がある。作者がなぜ、その言葉を選択したのかを考えながら作品を味わうのも楽しいものである。

